

# NEWS Letter

*Institute of Social Safety Science*

## 地域安全学会ニュースレター No. 87 —目次—

1. 2014 年度地域安全学会大会（総会・研究発表会（春季））のご案内 1
2. 地域安全学会研究発表会（春季）「優秀発表賞」募集のお知らせ 3
3. 第 35 回（2014 年度）研究発表会（秋季）査読論文の募集と投稿方法 4
4. 第 33 回地域安全学会研究発表会(秋季)における「優秀発表賞」審査結果の報告 6
5. 2013 年度地域安全学会技術賞審査報告 7
6. 研究運営委員会の 2013 年度活動報告 8
7. 寄稿  
東京大学 ICUS のミャンマーでの研究・教育支援活動 9  
川崎昭如（東京大学 生産技術研究所  
都市基盤安全工学国際研究センター（ICUS））
8. 第 14 回日本地震工学シンポジウム 論文募集 12
9. 広報委員会からのお知らせ 12



地域安全学会ニュースレター  
ISSS News Letter

No. 87  
2014. 04

# 1. 2014 年度地域安全学会大会(総会・研究発表会(春季))のご案内

---

- (1) 第 34 回 (2014 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季)
  - (2) 2014 年度地域安全学会総会
  - (3) オーガナイズドセッション型公開研究会等  
(阪神・淡路大震災から 20 年)
- 

兵庫県神戸市で 2014 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 34 回 (2014 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>を行いますので積極的な参加をお願いします。

今年度は兵庫県の「阪神・淡路大震災 20 周年事業」の助成を受けて実施します。

## (1) 第 34 回 (2014 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>

場所：兵庫県立大学防災教育センター (人と防災未来センター東館 4 階)

人と防災未来センター会議室 (人と防災未来センター東館 6 階)

日時：2014 年 5 月 16 日 (金) 13:00~16:00 一般参加可能

※プログラムは地域安全学会ホームページに掲載しています。

※上記の時間は一般論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

## (2) 2014 年度地域安全学会総会

場所：兵庫県立大学防災教育センター

日時：2013 年 5 月 16 日 (金) 16:00~17:30

懇親会：

場所：人と防災未来センター東館 1 階 新上海

日時：2014 年 5 月 16 日 (金) 18:00~20:00

ご挨拶：河田恵昭 (人と防災未来センター長)

室崎益輝 (兵庫県立大防災教育センター長)

## (3) オーガナイズドセッション型公開研究会

テーマ 1：復興まちづくり-阪神と東日本との比較- (コーディネーター担当：市古太郎)

テーマ 2：事業継続計画 (コーディネーター担当：紅谷昇平)

テーマ 3：行政と NPO との連携による被災地支援 (コーディネーター担当：阪本真由美)

場所：兵庫県立大学防災教育センター&人と防災未来センター

日時：2014 年 5 月 17 日 (土) 10:00~12:00 一般参加可能

## (4) ミニコンサート

シンガーソングライター 石田裕之さん

場所：兵庫県立大学防災教育センター 教室

日時：2014 年 5 月 17 日 (土) 12:15~12:45 一般参加可能

## ■現地見学会

日時：2014年5月17日（土）13：30～18：00

「人防『バックヤード』見学と長田復興まちあるき」

協力：人と防災未来センター・神戸市立地域人材支援センター

参加費：3,000円程度（バス代、体験学習謝金など）

- ・人と防災未来センター展示『バックヤード』見学コース
- ・阪神・淡路大震災の語り部による語り
- ・長田の町の復興と地域人材支援センターの取り組み
- ・ARを使った震災まちあるき体験

\*iphone、スマートフォン、i-padなどの通信可能なタブレット端末をお持ちの方はご持参ください。

**（要事前申込み）[ippan-haru@iiss.info](mailto:ippan-haru@iiss.info) へ氏名、所属、携帯番号を記載し申込みください。  
締め切り：5/9(金)**

## ■参加費

参加費 （研究発表会、公開研究会、ミニコンサート）無料

梗概集 4,000円

懇親会 社会人 6,000円

学生 2,000円

## 2. 地域安全学会研究発表会(春季)「優秀発表賞」募集のお知らせ

地域安全学会表彰委員会

地域安全学会では、2012年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成24年度に創設し、表彰を行っています。来たる平成26年5月に実施される第34回（2014年度）地域安全学会研究発表会(春季)一般論文については、下記要領で実施します。

なお、前回より事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。学生会員や若手会員の皆さんに受賞のチャンスが広がっていますので、奮って応募していただくようお願いします。

### ■「優秀発表賞」応募登録の方法

- ・研究発表会実行委員会への本論文送付時に、メール本文に以下の情報を記載する。

(1) 登録期限：平成26年4月末日

(2) 宛先：一般論文の送付先メールアドレスと同じ： [ippan-haru@iss.info](mailto:ippan-haru@iss.info)

(3) 応募登録内容、書式：

1行目 「優秀発表賞に応募します」と入力してください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

3行目 筆頭著者（＝優秀発表賞の応募登録者）の氏名

4行目 筆頭著者の所属

5行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）

（自宅以外の場合は、部課名、研究科／専攻名、研究室名などを最後まで正確に記載）

6行目 筆頭著者のE-メールアドレス

### ■第34回（2014年度）地域安全学会研究発表会(春季)での実施要領

- ・授賞対象：①論文の筆頭著者であること（第二著者以降は含まない）  
②論文の口頭発表者（著者名に○印がついている本会会員である事、代理発表は対象外）  
③以前に研究発表会（春季、秋季）で優秀発表賞を受賞していない者
- ・授賞件数：若干名
- ・選考方法：発表内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：大会当日の懇親会で発表予定（表彰状の授与は秋季大会とする予定）

# 3. 第35回(2014年度)研究発表会(秋季)査読論文(地域安全学会論文集 No.24)の募集と投稿方法

2014年4月  
地域安全学会 学術委員会

「論文査読システム」は電子申込・電子投稿となっております。2014年5月23日(金)正午までの期間内に地域安全学会ホームページ (issss.jp.net) から、**論文申込(講演申込を兼ねる)と査読用論文原稿を同時に投稿**してください。

また、CD-ROM版論文集を最終成果物として扱うことにより、査読はカラー原稿を前提として行います。カラー図版使用の制約やカラー印刷料金を廃止する一方、冊子体論文集はすべて白黒印刷となり、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承ください。

また、2009年度より新たに、別途、電子ジャーナル査読論文(9月募集)を発行することとなりました。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性があるものと認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集(電子ジャーナル1)(2015年3月発行予定)に掲載します。この場合、修正は1回のみとし、執筆要領は本査読論文の執筆要領に準拠します。

会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

## 1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限(電子投稿)  
2014年5月23日(金) 12:00(正午, 時間厳守)
- (2) 第一次審査結果の通知  
2014年7月下旬
- (3) 修正原稿の提出期限(電子投稿)  
2014年8月29日(金) 12:00(正午, 時間厳守)
- (4) 「地域安全学会論文集 No.24」への登載可否の通知  
2014年9月中旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限(PDFファイルの電子投稿および白黒原稿の郵送)
  - ① PDFファイルの電子投稿  
2014年10月3日(金) 12:00(正午, 時間厳守)
  - ② 白黒原稿の郵送  
2014年10月3日(金) (消印有効)
- (6) 地域安全学会研究発表会(秋季)での登載可の論文の発表(地域安全学会論文奨励賞の審査を兼ねる)  
月日: 2014年11月7日(金)~8日(土)  
場所: 静岡県地震防災センター
- (7) 地域安全学会論文賞・地域安全学会論文奨励賞授与式(2015年総会に予定)

## 2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円/編
- (2) 査読料の納入方法
  - ① 期限: 2014年5月24日(土)までに, ②宛てに振り込んで下さい。
  - ② 振込先: りそな銀行 市ヶ谷支店  
口座名: 一般社団法人地域安全学会 査読論文口座  
口座種別: 普通口座  
口座番号: 1745807  
振込者名: 受付番号+筆頭著者 (例: 2014-000 チイキタロウ)
  - ③ その他: 査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

## 3. 登載料の納入

- (1) 登載料(CD-ROM版論文集1枚+冊子体論文集1冊を含む)  
6ページは2万円/編、10ページを限度とする偶数ページの増頁については、5千円/2頁。
- (2) 登載料の納入方法  
2014年10月4日(土)までに、上記2.(2)-②の振込先に振込んで下さい。

#### 4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切り間際に投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、受付ができなくなる恐れも出てきます。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。
- (2) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略(詳細は電子投稿システムの指示に従って入力して下さい)
  - ・申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
  - ・論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250文字程度)を入力する。
  - ・その内容を確認し、必要があれば修正する。
  - ・原稿ファイル(PDF形式のみ)を指定し、送信する。
  - ・なお、ファイルを送信しただけでは投稿は完了しません。送信後に Web 上での指示に従い、アップされた自分の原稿ファイルをダウンロードし、内容を確認の上、自ら「確認ボタン」を押して下さい。この操作を行うと初めて投稿が完了します。
  - ・投稿が完了すると、メールにより受付番号とパスワードが通知されるので、電子投稿システムに再度ログインし、投稿ファイルの内容を確認し、必要であれば再投稿する。内容がよければ、申込・投稿を完了する。
  - ・査読結果は申込者の連絡先に送付されますので、日程をご確認の上、確実に受領できる場所をご指定ください。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法  
「論文集の執筆要領」は、本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ([http://isss.jp.net/isss-site/?page\\_id=85](http://isss.jp.net/isss-site/?page_id=85))にありますので、必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意ください。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、電子投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) 「CD-ROM 版論文集」には、登載決定後に電子投稿いただいた原稿ファイル(PDF形式)に、ページ番号を追加して収録しますので、カラー図版に関する制限はありません。査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順で最終原稿の電子投稿をお願いいたします。
- (6) 「冊子体論文集」には、登載決定後に郵送(あるいは宅配便)で提出いただく完全版下原稿を掲載します。平成19年度より冊子体論文集は白黒印刷のみとしましたので、白黒印刷の原稿を作成してお送りいただきます。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。

10月の冊子体論文集用の完全版下原稿の提出先(郵送もしくは宅配便のみ)

〒417-0801 静岡県富士市大淵325 常葉大学社会環境学部

地域安全学会 学術委員会 田中聡 宛

---

#### 【使用するブラウザについて】

電子投稿はできるだけ、Internet Explorer から、論文の登録・論文登録内容の更新を行ってください。

---

■ 「論文の登録」・・・新規に登録(申込・投稿)する場合

■ 「論文登録内容の更新」・・・登録済みの情報を修正したい場合

(新規登録、更新共に、5月23日(金)正午まで接続できます。)

電子申込・電子投稿に関するお問合せは地域安全学会学術委員会担当までお願いします。

E-mail: [gakujutsu@isss.info](mailto:gakujutsu@isss.info)

#### 会員の皆様へ 論文査読委員へのご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文1編あたり2名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼をe-mailで送信いたします。査読依頼の時期は6月上旬を予定しております。

地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 4. 第 33 回地域安全学会研究発表会(秋季)における「優秀発表賞」審査結果の報告

地域安全学会 表彰委員会（委員長：大西一嘉）

地域安全学会では、春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成 24 年度に創設し、表彰を行っています。平成 25 年 11 月 15～16 日に実施された第 33 回（2013 年度）地域安全学会研究発表会(秋季)においては、26 編の一般論文のポスター発表が行われ、あらかじめ応募登録された方を審査対象としました。

今回は 6 編の応募登録があり、2 日間のコアタイムの時間帯に、下記の審査要領に沿って採点后、2 名の採点委員を含む 10 名よりなる優秀発表賞審査会を開催して厳正なる審査を行った結果、以下の 3 人を授賞対象者として選考しました。（論文番号順）

- ・ 沖 祐哉（東京工業大学 人間環境システム専攻）  
「防犯カメラ映像を利用した集客施設での地震時の人間行動の分析  
映像のトラッキングに基づく時系列スライドの作成」
- ・ 支 媛（首都大学東京 大学院都市環境科学研究科都市システム科学域）  
「東日本大震災復興過程における仮設住宅団地の支援事業に関する研究  
一大船渡市における北上市沿岸被災地仮設住宅運営支援事業を対象に一」
- ・ 馬場拓矢（常葉大学 社会環境学部）  
「東日本大震災における避難行動・避難生活に関する教訓継承の取組  
岩手県大船渡市綾里地区の事例」

この審査結果にもとづき、研究発表会当日に行われた懇親会で発表し、表彰いたしました。今後の研究発表会におきましても、引き続き「優秀発表賞」の授与を行う予定ですので、奮って応募していただきますようお願いいたします。

### 「地域安全学会優秀発表賞」審査要領（平成 24 年 5 月 26 日制定）

#### 1. 授賞対象者

- 1) 地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者を対象とする。ただし、予定された発表者ではない代理発表者は対象外とする。

#### 2. 審査方法

- 1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長、および別途指名される採点委員から構成される優秀発表賞審査会が審査を行う。
- 2) 採点委員は、研究発表（口頭発表もしくはポスター発表）時に、評価シートを用いて各発表者の採点を行う。
- 3) 優秀発表賞審査会では、すべての採点委員により提出された評価シートに基づいて審議を行い、受賞者を決定する。
- 4) 審査の実施細目は別途定める。

#### 3. 表彰

- 1) 賞は「地域安全学会優秀発表賞」と称する。
- 2) 「地域安全学会優秀発表賞」の受賞者には、賞状を贈呈する。
- 3) 受賞者発表および表彰式については実施細目に定める。

## 5. 2013年度地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

本年度7回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、4件の応募があり、2014年2月から3月にかけて下記の審査要領に基づき審査が行われました。審査委員9人による厳正な審査の結果、今回の技術賞は下記のような結果となりました。ここに報告させていただきます。

### 技術賞

「地震ザブトンの開発と減災啓蒙活動」

黒田真吾（白山工業株式会社、正会員）  
翠川 三郎（東京工業大学、正会員）  
広瀬 茂男（東京工業大学名誉教授、非会員）  
吉田 稔（白山工業株式会社、非会員）

### ■2013年度「地域安全学会技術賞」の審査要領（抜粋）

#### 1. 授賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

#### 2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は、技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を召集し、技術賞審査会を開催する。
- (3) 第一次技術賞審査会では、応募状況の報告、応募書類の形式審査、審査方法の確認、および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は、当該技術の①実績、②有用性・実用性、③革新性・新規性、④一般性・汎用性、および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い、行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて、各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして、地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は、すべての審査員により提出された評価シートに基づき、技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第二次技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い、理事会の承認のうえ、受賞技術を決める。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

## 6. 研究運営委員会の2013年度活動報告

研究運営委員長 目黒公郎（東京大学）

研究運営委員会では、大きく2つの小委員会による活動を行っている。企画研究小委員会は、学会が自主的に実施する研究を実施する小委員会であり、受託研究小委員会は、外部機関との委託契約によって行う研究・調査を実施する小委員会である。2013年度における企画研究小委員会の活動の概要を報告する。

### (1) 企画研究小委員会

#### (a) 被災地生活支援のための循環型非常食の考案と事例紹介に関する小委員会（2013～2015年度）

主査：守茂昭（一般財団法人都市防災研究所）

防災倉庫に所蔵したまま賞味期限が来ると破棄される宿命にある多くの非常食は、ともすると被災時でさえ利用されず、資源のムダとなっている場合が多い。非常食普及の壁を打破するには、このムダの解消も含め、非常備蓄のあり方に関する考え方が再考される必要があり、ローリングストック法などに代表される方法論の提案と紹介を試みる。具体的には普通食として流通している食品であっても、賞味期限がある程度長い（半年から1年）ものであれば、備蓄倉庫にストックし、日常的に消費しながら非常時の食料としても活用していくローリングストック法を、多面的に実践する方法を検討していくことになる。その検討の途上で発生した東日本大震災を受け、東日本大震災の復興支援と連動させて、被災地産品で上記の備蓄の趣旨に叶う産品を探し出し、備蓄にふさわしい食材として世に紹介していく活動が検討・実践されている。

基本情報として、現状の災害備蓄食料の取り扱いの実情を把握する一方、ローリングストック法を進展させる多面的活動の一つとして、食品業界に呼びかけながら備蓄倉庫に蓄える食材が味覚面と栄養面においてバランスの良い品揃えになるように働きかける努力を展開している。また生産者サイドだけでなく、消費者の側の消費姿勢として、日持ちの良い食品を有効に活用していく食生活の知恵の考案活動も重要となる。さらに流通業界では「食品ロス」問題が発生し始めており、流通食材の1割前後は、新品のまま破棄されるという、防災備蓄側からすれば不可解な現象が起きており、小さな需要に応える小さな供給の仕組みづくりが急務となっている。

委員会開催は、2013年度10月に1回開催、被災地調査は2013年8月に実施した。また、2014年2月の震災対策技術展では日本災害食学会のセッションにて問題提議を行い、2014年3月には東京23区の区役所の備蓄状況調査アンケートを実施した。

（文責：守茂昭 主査）

#### (b) 「社会に役立つ防災情報システム研究」小委員会（2011～2014年度）

主査：牧紀男（京都大学）

本研究委員会は「電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ」と共同で、東日本大震災の長期的な復興、並びに次なる災害を想定し、若手研究者を中心とした人材のネットワークを構築すると共に、様々な情報システム技術を連携・融合させることで、情報混乱期における現場対応を支援する防災情報システムのあり方について研究を進めている。

本年度は、新潟大学・地域安全学会・電子情報通信学会共催で「第1回減災情報システム合同研究会」を2014年3月21日13:00-17:00、新潟大学 駅南キャンパス ときめいとにおいて開催した。9編の研究発表が行われた。当日の発表要旨は、以下のURLより参照可能である。今後、継続的に「減災情報システム合同研究会」を実施する計画であり、次回は2014年9月2日つくば市で開催予定となっている。

URL：<https://sites.google.com/site/drisjw/event/dris2014-03-21>

（文責：牧紀男 主査）

## 7. 寄稿

### 東京大学 ICUS のミャンマーでの研究・教育支援活動

川崎昭如（東京大学 生産技術研究所  
都市基盤安全工学国際研究センター(ICUS)）

#### 災害大国ミャンマーの課題

6,000 万の人口規模と豊富な天然資源を擁する開発潜在力、そして、中国、インド、タイと国境を接するという地政学的な面から、国際社会のミャンマーへの関心は高まっている。日本政府をはじめとする各国が巨額（総額 20 兆円超）の有償・無償の資金援助を表明しており、この機会を活かして適切な計画と技術戦略で開発を進めれば、ミャンマーは十数年といった短期間で新興工業国へ発展できる可能性を秘めている。

一方、ミャンマー国内にはいくつもの活断層があり、これまでも多くの地震被害を経験してきた。最大都市ヤンゴン（人口 450 万人）や第 2 都市マンダレー（120 万人）、首都ネピドー（90 万人）、バゴ（25 万人）、タウングー、チャウセ、ミッチーナなど主要都市は全てサガイン断層上またはその近傍に位置する。風水害は国内各所で頻発しており、近年では 2008 年にサイクロン・ナルギスによりヤンゴンやイラワジデルタで、また 2010 年と 2011 年にバゴ川流域で、2013 年はミャンマー南東部の四州で大規模な水害が発生した。

このような災害大国ミャンマーでは、今後予想される大規模かつ急速な国土・都市開発に伴う都市人口の拡大と産業・居住区域の拡大による災害リスクの増大、気候変動に伴う風水害発生などの不確実性の増大への対応が喫緊の課題である。しかし、サイクロン・ナルギスでは死者・行方不明者が 14 万人に達したことなどから見られるように、質と量の両面において現状の不十分な社会基盤施設では災害抑止がほとんど期待できない。また、ミャンマーには災害に対応できる技術や情報システム、人材が大幅に不足している。総合的な災害対応能力の強化のためには、産学官の緊密な連携が必要であるが、縦割り・縄張り意識が激しいミャンマー社会ではそのような横断的連携体制がほとんど整備されておらず、防災体制の確立に大きな支障をきたしている。



図 ミャンマーの概要

## 高等教育の現状

ミャンマーの理工系の最高峰研究教育機関であるヤンゴン工科大学（YTU）は、1988年の全国的な民主化要求デモの発祥の地として、軍事政権により閉鎖と再開が断続的に繰り返されてきた。2000年以降は大学院機能のみが残され、その研究と教育の質は低下の一途を辿っている。しかし2011年の民政移管に伴い、2012年末、YTUの学部教育が十数年ぶりに再開された。現在、YTUは科学技術省から中核的研究拠点（COE）に位置づけられているが、自国の支援は乏しく、高等教育および研究遂行の能力は依然低いままである。ミャンマーの防災対応能力の向上を図るには、大学院プログラムの拡充・強化によってYTUより輩出される人材の能力強化を図るとともに、共同研究を通じてYTUの教員・大学院生の研究遂行能力を向上させることが喫緊の課題である。



ロシアによって建立されたYTUのメイン・ビルディング。現在、日本政府の支援による研究棟の建設を計画中。



YTUの学生との集合写真。白いシャツと紺のロンジー（巻きスカート）は工科大学の制服。大学院生の9割は女性であり、女性の教員比率も高い。

## 東京大学 ICUS の活動

ICUSとYTUには長期にわたる研究活動上の深い関係と実績がある。ICUSセンター長の目黒公郎教授は、軍事政権下の1990年代半ばより世界地震安全推進機構（WSSI）の調査員・講師として、ミャンマーの強震ネットワークシステムを開発し、気象水文局（DMH）に地震計を設置するなどの活動を進めてきた。2011年の同国の民政移管後は、急速な社会・経済発展が予測されるミャンマーの防災と社会基盤施設の管理に関する研究に着手すべく、2012年9月よりYTUの土木、建築・都市計画系の教員との交流を開始した。そして同年12月には、教員不足に頭を抱えるYTUの要望のもと、ICUSを中心とする東京大学生産技術研究所の有志教員8名による防災と社会基盤施設管理、地理空間情報技術に関するYTUでの出張講義を開始した。同講義の受講者はYTUの土木工学、建築学、地質工学の大学院生および教員など約30名である。なお、本出張講義の一環として、東北大学災害科学国際研究所の村尾修教授にも講義を提供していただいた。これまでにYTUで提供した講義の一覧を表に示す。また、YTUの土木工学科ではJICAのミャンマー工学教育拡充プロジェクトにより、京都大学による講義も提供されている。

表 ICUS が YTU で実施した出張講義の一覧

期間	講義名	総講義時間数
2012年12月～ 2013年3月	Introduction to adaptive technologies in disaster management	66 時間
2013年8～9月	GIS and remote sensing	56 時間
2013年8月	Economic impact of cross-border international freight transportation projects: evidences from Greater Mekong Sub-region	3 時間
2013年12月	Development of building vulnerability functions based on the damage due to the 1995 Kobe earthquake, Japan	6 時間
2014年1～2月	Infrastructure management	27 時間

### ミャンマーでの共同研究と国際シンポジウムの開催

この機会を通して、ICUS と YTU の教員および大学院生が直接顔をつき合わせながら、個別研究テーマに関する議論を開始している。一例として、バゴー川の洪水氾濫モデルの構築に関して、YTU と ICUS の教員が共同で YTU の大学院生の研究論文を指導している。さらに、これまで ICUS が 2002 年からアジア各地で毎年開催してきた、「アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム (USMCA)」を 2014 年は、YTU と共催してヤンゴンにて 11 月 3～5 日に開催することを決定した。本シンポジウムには、ミャンマーのみならず、アジア各国から多数の研究機関、行政、産業界からの参加が見込まれる。本シンポジウムでは、ヤンゴン都市圏を視察するエクスカージョンも企画されており、ミャンマーの研究者と議論しながら、今後の急激な変化が予想されるヤンゴンの 2014 年の姿をこの目で確かめる絶好の機会である。長い雨季が終わり、乾期が始まる 11 月のヤンゴンは 1 年の中で最も過ごしやすい時期であり、まだミャンマーを訪問されたことがない方は、この機会に USMCA2014 への参加をご検討いただければ幸いである。

USMCA 2014 公式ウェブサイト <<http://icus-incede.iis.u-tokyo.ac.jp/USMCA2014/>>



本講義を契機に、YTU 初のコンピュータ実習室を設置。GIS とリモセンの演習を実施。頻発する停電は、ミャンマー乾期の風物詩



目黒公郎教授による総合防災の講義。暑気の気温は連日 35℃を越すが、教室内にエアコンはなし。しかし、聴講する学生の眼差しは真剣そのもの。

## 8. 第 14 回日本地震工学シンポジウム 論文募集

運営委員長 山崎文雄  
学術部会長 能島暢呂

標記シンポジウムの論文募集について、シンポジウム HP に掲載されました。次のようなスケジュールとなっておりますので、ふるってご投稿をお願いいたします。

- ・主催：日本地震工学会（幹事学会）ほか
- ・日程：2014 年 12 月 4 日(木)～6 日(土)
- ・場所：幕張メッセ国際会議場（〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1）
- ・論文募集スケジュール
  - 2014 年 5 月 7 日(水) 論文投稿受付開始
  - 2014 年 8 月 8 日(金) 論文投稿締切り
- ・詳しくは下記サイトをご覧ください。
  - <http://www.14jees.jp/>
  - <http://www.14jees.jp/papers/index.html>

## 9. 広報委員会からのお知らせ

地域安全学会広報委員会  
委員長 村尾 修

### 地域安全学会ニュースレターへの寄稿について

地域安全学会ニュースレターでは、会員の皆様からの寄稿を募集しています。研究最前線、タイムリーな災害のわかりやすい解説、各種被害調査、国際学会の報告、国や地域レベルでの防災・減災活動や教育など、地域安全学会会員の皆様の役に立つ読み物をお寄せ下さい。ただし、お寄せいただきました原稿は、広報委員会のレビューを経た上での掲載とさせていただきます。

原稿は A4 判 4 ページ（1 ページ 40 字×43 行程度）までにまとめ、郵便番号・連絡先住所・氏名・所属・電話番号・メールアドレスをご記入の上、下記 NL 寄稿担当までメールにてご投稿下さい。また、メールのタイトルには「地域安全学会 NL 寄稿」と明記ください。

皆さまからのご寄稿をお待ちしております。

#### 【寄稿先】

NL 寄稿担当：柄谷友香 <karatani@meijo-u.ac.jp>



地域安全学会ニューズレター  
第 87 号 2014 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局  
〒102-0085 東京都千代田区六番町 11-3  
エクサス六番町 401  
株式会社サイエンスクラフト内  
電話・FAX : 03-3261-6199  
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。